

教科別授業改善プラン（算数科）

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・計算領域では、ICT 機器等を活用してドリル教材を繰り返し取り組ませたりすることで技能を高めることができた。
- ・図形領域においては、作図などをたくさん取り組むことで、図形への関心を向けることができた。
- ・ステップアップ学習や東京ベーシック・ドリルを活用し、児童の理解度を知り、苦手な単元などでは算数力アップ教室や土曜補習教室を活用したりすることで、計算技能の向上や知識の定着を図ることができた。

(2) 課題

- ・算数の学習に苦手意識をもっている児童は、正答をノートに記録することが多く見られる。そのため、粘り強く考えようとしたり、多様な解決方法を考えようとしたり、筋道立てて順序よく考える児童が少ない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(領域別、観点別経年比較)

評価の記号は、平均正答率が目標値を「△…5ポイント以上上回っている」「▼…5ポイント以上下回っている」「≒…ほぼ同等」

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	領域別 ・数と計算≒ ・図形≒ ・測定≒・データの活用△ 観点別 ・知識・技能≒ ・思考・判断・表現≒ ・主体的に学習に取り組む態度△	/	/
第5学年	領域別 ・数と計算≒ ・図形≒ ・変化と関係▼・データの活用▼ 観点別 ・知識・技能≒ ・思考・判断・表現≒ ・主体的に学習に取り組む態度≒	領域別 ・数と計算≒ ・図形≒ ・変化と関係≒・データの活用≒ 観点別 ・知識・技能≒ ・思考・判断・表現≒ ・主体的に学習に取り組む態度≒ (第4学年時)	/
第6学年	領域別 ・数と計算≒ ・図形≒ ・変化と関係△・データの活用≒ 観点別 ・知識・技能≒ ・思考・判断・表現≒ ・主体的に学習に取り組む態度≒	領域別 ・数と計算△ ・図形≒ ・変化と関係△・データの活用△ 観点別 ・知識・技能≒ ・思考・判断・表現△ ・主体的に学習に取り組む態度△ (第5学年時)	領域別 ・数と計算△ ・図形△ ・変化と関係△・データの活用△ 観点別 ・知識・技能△ ・思考・判断・表現△ ・主体的に学習に取り組む態度△ (第4学年時)

(2)分析

4年	<p>正答率は、領域別の「データの活用」、観点別の「主体的に学習に取り組む姿勢」が目標値より5ポイント以上上回った。それ以外は、領域別、観点別とともに目標値と同等である。</p> <p>○全体的に、正答率が目標値と同等な問題も、目標値をほとんど上回っている。</p> <p>●円の半径についての問題の正答率が目標値より15ポイント程度下回った。誤答した児童の多くは、直径を選択していた。</p> <p>●分数についての問題の正答率が目標値より8ポイント程度下回った。</p>
5年	<p>正答率は、観点別は、すべて目標値と同等であった。領域別の「数と計算」「図形」は目標値と同等であった。しかし、「変化と関係」「データの活用」は目標値を下回った。</p> <p>○全体の正答率が目標値より上回っている児童は、全体の5割以上になる。</p> <p>●平行四辺形の作図の問題の正答率が目標値より30ポイント以上下回った。作図に取り組んだが、誤答の児童が多くいた。</p> <p>●折れ線グラフの読み取りの問題の正答率は6ポイント目標値を上回っていた。しかし、グラフの読み取りのミスを言葉や数を使って説明する問題の正答率は、20ポイント以上下回った。説明する問題の無答率が高いことから、説明をする力が不十分である。</p>
6年	<p>正答率は、領域別の「変化と関係」は目標値より5ポイント以上上回った。それ以外は目標値と同等である。観点別は、目標値と同等である。</p> <p>○比例の問題の正答率が目標値より12ポイント以上上回った。また、速さの問題の正答率も5ポイント以上上回った。</p> <p>●比較量と割合から基準量を求める問題の正答率が目標値より10ポイント程度下回った。</p> <p>●与えられた情報を読み取り、基準量と割合から求めた比較量を比べ、発言が正しい理由を説明する問題の正答率が目標値を15ポイント程下回った。また、他の説明をする問題も無答率が高いことから、説明をする力が不十分である。</p>

3 重点課題

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・10以内のたし算、ひき算の計算を速く正しくすること。 ・10のまとまりを意識して、繰り上がりや繰り下がり計算をすること。 ・たし算、ひき算の違いを理解して立式すること。 ・数的な感覚を身に付けること。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりや繰り下がりのある計算を確実にできるようになること。 ・かけ算について理解し、九九を確実に覚えること。 ・ものさしを適切に使い、長さを測ったり直線を引いたりすること。 ・長さや水のかさの単位換算をすること
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算を速く正しくすること。 ・時刻や時間を正確に求めること。 ・思考力を必要とする問題を自力で解決し、自分の考えを分かりやすく説明すること。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・重さや長さなど単位の理解を定着させ、単位換算ができるようになること。 ・正しい算数用語を身に付けること。 ・単位分数をもとに分数が構成されていることを、テープ図などで表すこと。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・角度の測定の技能が十分に身に付けること。 ・与えられたデータの中から、正確に情報を読み取ること。 ・文章問題を正しく理解し、立式したり、図に表したりすること。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文から基準量と比較量を把握し、関係を図や式に表すこと。 ・演算決定の根拠や計算の仕方を説明すること。

4 授業改善策

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の時間を活用して、繰り返し計算練習に取り組み、計算力を高める。 ・ブロックを操作したり、図や計算の仕方をノートに書いたりする活動を設定する。その際、10のまとまりで考えることの良さに気付かせ、活用できるようにさせる。 ・立式場面で、どうしてその式になったか根拠を説明し合い、理解を確かなものにさせる。 ・具体物を使って、実際に比べたり、測ったりする活動を多く取り入れ、数や量の感覚を身に付けさせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題を朝学習の課題として取り入れ、継続して取り組ませる。 ・家庭と連携して、九九を覚えさせる。 ・長さや水のかさにおいては、体験的な学習を通して量感を養わせ、継続して指導する。 ・日常的にものさしを使って直線を引いたり、長さを測ったりさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算やわり算などの単元や朝学習の時間に、計算問題を多く行う。 ・時刻や時間を求める問題に多く触れ、単元が終わっても基礎基本等の時間を使い、定期的に復習する。 ・文章問題や思考力を必要とする問題を児童自身で解くことができるよう、半具体物の操作や図や表を用いたりする。 ・自分の考えをノートや電子黒板を用いて表現し、発表する機会を設ける。補助発問をし、分かりやすい表現について考えさせる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に長さや重さを測る学習を十分にさせる。 ・朝学習や授業などで、単位換算の問題に取り組む。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指導では、ICT機器等を活用して、角度の測定や作図の方法を視覚的に理解させる。 ・算数だけでなく他教科でもグラフやデータから情報を読み取る学習を重点的に行う。 ・問題の意味を考えさせる活動の時間を確保し、数直線図などを用いて正しく立式することを繰り返し行う。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線、図、言葉などを用いて数の関係を整理させ、問題場面を把握できるようにする。 ・演算決定の根拠や計算の仕方を話し合ったり説明したりする機会を多く設定する。
全学年共通	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別指導を行い、個に応じた指導を行う。またその際、必要に応じて授業のはじめに既習事項を復習する時間を設定し、基礎・基本の定着を図る。 ・ICT機器等を活用して視覚的に理解させたり、数学的活動を取り入れたりする。 ・朝学習の時間などを活用し、ドリルパークなどで計算力を高める。また、ステップアップ学習や東京ベーシック・ドリル等の学習を繰り返し行い、計算力などを確実にする。 ・平日の放課後の算数力UP教室を活用し、不十分な学習の定着を図る。